Staff Blog

園長室ブログ

毎年のように

毎年、春から夏にかけて、鳥のヒナを見つけた、拾った、という問合せや相談がたくさんあります。日常生活で鳥のヒナに遭遇する場面は滅多にないので、それを見つけただけで皆さん「うわ、どうしよう」と思うようで「拾ったのでそちらで育ててくれないか」という依頼もありますが、基本「そのままにしておいて下さい」とお願いしています。

自然界では当然のごとく古い命と引き換えに、新しい命が誕生しています。鳥たちからすれば産卵、子育て、巣立ちという一連の営みは次の世代へバトンタッチする重要なイベントになるわけです。親鳥は巣立ちまで一生懸命にヒナの世話をします。まれに巣から落ちたヒナがいれば、親は懸命にわが子を探すでしょう。しかしその時ヒナが拾われてしまうとまさに誘拐です。鳥からすれば余計なことをしないで、という感じではないでしょうか。

«ムクドリのヒナ»

見つけた人は弱ってるとか、猫にやられるとか、善意でとった行動でそれ自体を責めるつもりはありませんが、かえってその行為がアダになったりするわけなんですね。もちろん傷ついたり怪我したりしていれば、傷病動物ということで相談して頂いて結構ですが、単にヒナを見つけたというだけで拾ったりはせず、自然のままにしてあげてください。（もっと言うと、一般に鳥獣保護法と言われる法律で、野生の鳥類や哺乳類は原則的にヒナや卵も含め勝手に捕獲してはいけないことになっています。）

そんな中、最近園内でお客さんから「ツキノワグマのプールに肌色の変な生き物みたいなのが浮いている。一度クマが口に入れ吐き出した。」という電話がありました。何だろう、とザワつく気持ちで駆けつけてみると、それは体長3センチぐらいの鳥のヒナでまだ毛も生えておらず、ヒトで言えば胎児といってもいいような孵化前後の幼体でした。明らかに口ばしの形状をもっていることから鳥のヒナかと思います、とお客さんには話しました。「でも手みたいなのがあるよ」というのでそれは手じゃなくてやがて羽になっていく部分で、これはこれで進化の過程が分かるおもしろい話題になるかな？と思いましたが、お客さんたちはザワザワしていたのでやめました。

«謎の生き物は・・・»

それより何故クマのプールに？足りない頭で考えたのは上空のカラスが、それこそヒナをどこかの巣から誘拐し、咥えて飛んでいるうちに落としたのでは？というもの。しかし、飼育員に話すと「いや、園長あそこにはスズメの巣があるんですよ」とのこと。

«ツキノワグマのグラウンド»

さあ問題です。コンクリートの擁壁で囲まれたクマのグラウンドのどこに巣があるでしょう・・・。驚きました。擁壁の水抜き穴に巣をつくっているのです。それも一つではなく穴という穴ほとんどに。確かにここならカラスにも襲われそうにありません。たまたま、雨が降ったときに（2、3日前に大量の降雨があった）ヒナが流され、落ちてきたのでしょうか。好奇心旺盛なツキノワグマは、一度口に入れたもののあまり好みではなかったのか吐き出し、プールに落ちたということなのでしょう。

«見上げる先には»

«穴という穴に»

«スズメの巣が»

エゾヒグマの方にも同じ穴と巣があるようで、こちらだったら食べてたかな？

いずれにしてもヒトもクマもヒナは拾ったり**食べたりせず**、そのままにして下さい、という話でした。

2016年5月23日

過去の一覧

令和6年

令和5年

令和4年

令和3年

令和2年